

脳神経内科



診療科動画



診療科HP



1. スタッフ
 診療科長(教授) 植田 光晴
 特任教授1名、准教授1名
 講師1名、診療講師1名
 助教4名(特任2)、
 医員9名

2. 診療科の特徴、診療内容

脳神経内科は中枢神経(脳・脊髄)、末梢神経、筋疾患を中心とする諸疾患の診療を行う内科の専門分野である。脳神経内科を受診する際の主な主訴としては、頭痛、めまい、手足のしびれ・痛み、感覚が鈍い、手足に力がはいらない、もの忘れ、意識がなくなる、手足のふるえ、手足がひきつる、歩行時にふらつく、足が前にでにくい、物がだぶって見える、見える範囲がせまい、言葉がもつれる、食べ物が飲み込みにくいなど多彩である。

診療の主な対象疾患としては、

- 1) 脳血管障害：脳梗塞、一過性脳虚血発作など
- 2) 神経感染症：脳炎、髄膜炎など
- 3) 変性疾患：アルツハイマー病、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、運動ニューロン病など
- 4) 代謝性疾患：ビタミン欠乏症など
- 5) 中毒性疾患：CO中毒、スモン、水俣病など
- 6) 脱髄性疾患：多発性硬化症など
- 7) 脊髄疾患：脊髄炎、脊髄症など
- 8) 末梢神経疾患：家族性アミロイドポリニューロパチー、糖尿病性ニューロパチー、顔面神経麻痺、手根管症候群など
- 9) 筋疾患：多発筋炎、皮膚筋炎、封入体筋炎、筋ジストロフィー、重症筋無力症など
- 10) 発作性疾患：てんかん、片頭痛、めまいなど
- 11) 内科疾患、悪性腫瘍に伴う神経合併症など

3. 診療体制

○外来診療体制

月：中島誠、植田明彦、野村隼也
 火：植田光晴、中島誠、村上慶高
 水：植田光晴、中原圭一、進藤誠悟
 木：三隅洋平、植田明彦、池ノ下侑
 金：三隅洋平、松原崇一朗、水谷浩徳

○病棟診療体制

月：抄読会、科長回診、症例検討、医局会、神経放射線カンファレンス、ストロークカンファレンス
 火：電気生理検査、頸部血管エコー、脳血管造影検査、チームカンファレンス
 水：
 木：電気生理検査、経食道心エコー検査、チームカンファレンス
 金：電気生理検査、頸部血管エコー、脳血管造影検査、合同カンファレンス

4. 診療実績

○疾患別の患者数

2022年度

入院：

脳血管障害 113名、ニューロパチー 79名、運動ニューロン疾患 48名、アミロイドーシス 48名、重症筋無力症 34名、脳炎・脳症・髄膜炎 32名、多発性硬化症・視神経脊髄炎 32名、パーキンソン病・パーキンソン症候群 30名、脊髄小脳変性症・多系統萎縮症 26名、てんかん・けいれん発作 23名、脊髄・脊椎疾患 22名、ミオパチー 21名、機能性神経症 9名、腫瘍性疾患 8名、自律神経疾患 4名、代謝性疾患 3名、中毒疾患 2名、不随意運動症 1名、頭痛 1名、その他 5名；合計 541名

外来：初診 1,023名、再来 9,131名

○主要な疾患の治療実績(成績)

遺伝性トランスサイレチンアミロイドーシスに対して全国より診断依頼を受け、siRNA、TTR 四量体安定化剤を含む治療を行い、生命予後の改善、進行の阻止効果が得られている。

脳梗塞超急性期に rt-PA による血栓溶解療法や血管内治療を実施し、生命、機能予後の改善が得られている。頸動脈の高度狭窄例に対してバルーンによる拡張とステント留置による治療でも優れた成績を挙げている。

重症筋無力症や脱髄性疾患、炎症性筋疾患、免疫介在性ニューロパチー、免疫介在性脳炎・脳症に対して、適応に応じて免疫抑制剤、IVIg 療法、血液浄化療法を併用することにより、良好な治療成績が得られている。

○検査の実績等

神経伝導検査：478例、針筋電図検査：136例、表面筋電図検査：11例、反復刺激検査：100例、その他筋電図検査：33例、筋生検：12例、神経生検：1例、頸部血管エコー：297例、脳波：278例、長時間脳波ビデオ同期記録検査：18例、脳血管造影(検査)：32例、脳血管造影(治療)：18例、頸動脈ステント留置術：8例

5. 高度先進的な医療の取組み

遺伝性トランスサイレチンアミロイドーシス、遺伝性脳血管障害の臨床・疫学・病態解明、治療法の開発、脳卒中に対する脳血管内治療を中心に先進的な治療および研究を進めている。

6. 臨床試験・治験の取組

遺伝性トランスサイレチンアミロイドーシス患者において TTR 産生を抑制する siRNA の治験や、重症ギラン・バレー症候群 (GBS) 患者を対象としたエクリズマブの第 III 相試験 (ECU-GBS-301)、GNE ミオパチーに N-アセチルノイラミン酸内服など多数実施した。

7. 地域医療への貢献

開業医、勤務医、パラメディカルを含む医療関係者を対象とした脳卒中、パーキンソン病、頭痛、めまい、てんかんの診断と治療に関する講演会を実施している。熊本県特定疾患審査、学校職員健康診査、熊本市身体障害審査にも従事している。

8. 医療人教育の取組み

脳神経内科で取り扱う疾患は内科系の他の専門分野と比べても種類が多い。頻度の高い疾患を中心に、基本的知識の修得、診断・治療方針が組み立てられるように教育を行っている。難病診療や脳卒中診療に従事する医療人の教育を行っている。

9. 研究活動

【研究プロジェクト名および概要】

- I. アミロイドーシスの病態解析と治療法の開発
 - I-1. 遺伝性トランスサイレチンアミロイドーシスのアミロイド沈着機構の解析と治療法開発に関する研究
 - I-2. アミロイドーシス全般の診断法の確立と病態解析
 - I-3. 野生型トランスサイレチンアミロイドーシスの病態解析
 - I-4. 質量分析法によるアミロイドーシス病型診断法の開発
 - I-5. 新規アミロイドーシスの病態解析
 - I-6. アルツハイマー病、脳アミロイドアンギオパチーの病態解析
- II. 脳血管障害の病態解析と治療法開発
 - II-1. CADASIL 並びに遺伝性脳小血管病の実態調査、診断、病態解析に関する研究
 - II-2. 脳血管障害の MRI/CT・神経超音波・SPECT を用いた臨床解析並びに超急性期治療に関する研究
 - II-3. Drip and ship システムによる脳卒中急性期診療体制の構築
 - II-4. 抗血栓薬、脳保護薬、降圧薬および脂質異常症治療薬の臨床病型別治療効果の研究
- III. 神経難病の病態解析と治療法に関する開発
 - III-1. IRUD 拠点病院活動を基盤とした遺伝性希少疾患の診断体制構築

- III-2. パーキンソン病、多系統萎縮症の病態解析
- III-3. 疾患レジストリを基盤とした疾患バイオマーカーの開発
- III-4. 神経免疫疾患の病態解析
- III-5. 筋疾患の臨床解析
- IV. てんかんの病態解析
- V. 中毒性神経疾患の病態解析と治療開発
 - V-1. 有機水銀中毒 (水俣病) の長期経過例の臨床像に関する研究
 - V-2. 熊本地区におけるスモン患者の現状調査

10. 獲得競争資金

【代表研究者】(代表的なもののみ)
文部科学省科学研究費

- 1. 令和2-令和4年度 若手研究
急性期脳卒中におけるてんかん原生の解明
(多施設前向き観察研究)
- 2. 令和2-令和5年度 国際共同研究加速基金
脳血管指向型の複合型脳アミロイドアンギオパチー掃討治療の開発
- 3. 令和3-令和4年度 若手研究
遺伝性トランスサイレチンアミロイドーシスにおける脳アミロイド血管症の病態解析
- 4. 令和4-令和6年度 基盤研究(B)
ATTR アミロイドーシスを真に克服する病態解明とアミロイド・クリアランス療法
- 5. 令和4-令和6年度 基盤研究(C)
小血管の老化から解明するトランスサイレチンアミロイドーシスの病態